

**「稲沢市人口ビジョン(案)」 「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)」
に対するパブリックコメントの実施結果**

- 1 募集期間 平成28年 2月23日（火）から平成28年 3月10日（木）まで
- 2 意見提出者数 6人
- 3 意見件数 16件
- 4 提出されたご意見の要旨と市の考え方
(ご意見は、文意等を損なわないように要約・補足等をさせていただいております。)

No.	項目	市民から寄せられた意見	市の考え方
1	1	重点戦略（1）名鉄国府宮駅周辺の再整備に取り組みます (14 ページ、21 ページ)	稲沢市を活性化するには国府宮駅周辺の開発が重要だと思います。駅を降りてすぐに移動して家や学校に行ってしまうますが、喫茶店やレストランやスーパーなど駅周辺に留まってもらえるようにすると良いと思います。 また、稲沢駅周辺や国府宮駅周辺ではマンションを中心に建てるが良いと思いますが、郊外の広い庭付き一戸建てがほしい方のために、祖父江稲沢線などの道路を早く開通させ、祖父江や平和などを国府宮駅まで10～20分圏域とすれば、名古屋通勤圏として十分に戦えると思います。
			名鉄国府宮駅周辺の再整備につきましては、人が集い、賑わいのある空間となるよう検討してまいります。 なお、祖父江稲沢線の整備につきましては、平成28年3月末に市役所から国道155号までの区間が開通いたしました。今後につきましては、早期の事業完了を目指し、事業の進捗を図ってまいります。
2	2	重点戦略（1）名鉄国府宮駅周辺の再整備に取り組みます (14 ページ、21 ページ)	全体方針には賛成ですので要望です。 本文中、「植木のまち」という言葉が全く出てきませんが、転入者を呼び込むには「植木のまち」という特徴をもっと活用し、駅前や中心市街地にたくさんの木を植え、「緑に囲まれたまち」を最大の魅力としてアピールしたら良いのではないのでしょうか。 私は平成26年に家を見て、県内の他市から本市に転入しました。多くの人が思うように、交通の便が良
			本市は、「植木のまち」と言われているにもかかわらず、中心市街地には「みどり」が少なく感じられ、潤いにかける印象があります。このことから、名鉄国府宮駅周辺の再整備においては、「まち」と「みどり」の調和を図りつつ、本市の玄関口としてふさわしいものとなるよう検討してまいります。

		<p>く、買い物も便利であることが稲沢にした理由です。しかし不満もあります。それは、駅周辺や街並みに「緑の存在を感じない」ことです。</p> <p>関東近郊の人気になっている町は、ほぼ例外なく駅前やその周辺に緑の潤いがあるイメージがあり、便利さだけではない「住みたい」と思わせる魅力があると感じます。</p> <p>大手住宅メーカーやマンションの宣伝に、建物本体と同じくらいの存在感で緑が使われているのも、住みたいと思わせる魅力が緑にはあると認識されているからです。</p> <p>人口ビジョンの中で、居住地選択にあたって緑や公園が多いことはそれほど重視されていないというアンケート結果がありますが、それは普段、緑を意識していないからその価値に気付かない人が多いだけで、たくさんの緑に囲まれて暮らしてみれば、やはり安らぎやゆとりといった特別な価値、魅力を感じるという人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>車の通行の邪魔になったから樹形も考えずに木をばっさり切る、落ち葉掃きが面倒だから木を植えない、売れそうだから農地をどんどん宅地化するといった、他の自治体と同じ「合理的」なまちづくりをして、「便利さ」だけを頼みに地域間競争に打ち勝とうとしたら、永遠に同じような自治体との競争です。そのためには、常に便利で新しくて安いものを提供し続けなくてはならないでしょう。それはとても大変なことと思います。</p> <p>その点、緑を魅力の中心に据えたまちづくりは、時間がたてば木の成</p>	
--	--	---	--

			<p>長と共に魅力が高まるとも言え、手入れさえ怠らなければ、小さな投資でまちの魅力をいつまでも守ることができます。</p> <p>他の自治体とは違う植木のまちという個性がせっかくあるのですから、その個性を生かし、「稲沢って、まちなかに木がいっぱいあって良い」とか「愛知にある稲沢と言うまちは、町中に緑があふれていて良いらしい」と言われるような、緑に囲まれたまちへの道筋づくりを期待しますし、応援したいと思えます。</p>	
3	3	<p>重点戦略（1）名鉄国府宮駅周辺の再整備に取り組みます（14 ページ、21 ページ）</p>	<p>「人口ビジョン」「総合戦略」の両案を見る限り、「名鉄国府宮駅地区を再開発して人口増を目指す」ことが、重要な柱になっている内容だと思います。</p> <p>稲沢市は既に JR 操車場の跡地を再開発し、高層マンションが多数建設されて人口が増加しています。そのため、「希望する保育園に入れない」「小学校がマンモス化して教室数が不足する」等、住民や子どもたちにいろいろな不都合が起きている。このような問題を生じさせた稲沢市の責任は大きいと思います(当然予測できたことだと思います)。市としてどのような反省をしているのでしょうか。</p>	<p>開発が進むにつれ、想定よりも急激に人口が増加したため、近い将来、学校においてご指摘の問題等が発生する事態になりました。</p> <p>そのため、学識経験者、区長、小中学校の PTA 代表、学校長からなる通学区域審議会を平成 27 年度から立ち上げて、審議をお願いしています。</p> <p>平成 28 年中に頂く予定の審議会からの答申を元に、対応策を考えて対処していく計画です。</p> <p>保育園の利用状況については、保育制度の改正、ライフスタイルの多様化、共働き家庭の増加等により低年齢児は増加傾向にある一方、幼児は少子化により減少しております。</p> <p>このことを考慮した上で、本市の保育園における受け入れ方針は市全体で保育を確保していくとしております。しかし、現実的には東に住む方が西にある保育園まで通うことは不便であるため、近隣の保育園を含めて対応しているところです。下津地区につ</p>

			<p>いては、同じ中学校区内にある子生和保育園の建て替えを行うとともに、その周辺にある私立の稲沢保育園、大里東みどり保育園に乳児棟の建築を補助することで低年齢児の受け入れ確保を進めてきました。また、保育園の定員の見直しも実施するなどして保育園に入園いただいています。保育園の運営には、これら施設の整備は勿論必要なことですが、同時に全国的に問題となっている保育士の確保が急務となっています。本市においても例外ではなく、保育士の確保に苦慮しており引き続き努力していきます。</p> <p>今後も低年齢児の入園希望が増加することが見込まれるため様々な手法を調査・研究しながら対応していきます。</p> <p>名鉄国府宮駅の再整備に当たりましては、ご指摘の問題を考慮しながら進めてまいります。</p>
4	その他	<p>まち・ひと・しごと創生戦略会議には、下津地区における保育園や小学校の児童数急増に伴う不都合等の情報が出されておらず、そうした問題が起きていることさえ各委員に知らされていない状態です。このような不十分な情報のもとでの会議で結論を出すのは反対です。2回傍聴しましたが、議論が深まったとはとても言えない内容でした。</p> <p>傍聴した率直な感想は「稲沢市の未来を語り合う会議なのに、なんと暗く活気がないのか」ということでした。それは、市民の願いを引き出し膨らませ、実現の道を探る行政のプロたる市側が、市民の足を引っ張るような発言を長時間して議論を</p>	<p>まち・ひと・しごと創生戦略会議は、これまで4回開催してまいりましたが、1回あたり1～2時間の会議であり、委員一人ひとりの発言時間はどうしても限られます。この会議だけで市の総合戦略の全てを決めることは到底できませんので、それを補完する意味でも、各委員へ資料の事前説明を行い、共通の理解と認識を持っていただいた上で議論を行っていただいております。</p> <p>また、総合戦略案の作成に当たりましては、庁内の本部会議、関係課や部長へのヒアリングなどを行って全市的に内容を議論するとともに、各種市民意識調査、</p>

			妨げているように感じたのと表裏にあるのではないのでしょうか。	まちづくりワークショップ、市民インタビューといった様々な市民参画の手法を駆使し、多様な市民の声を反映させるよう努めております。
4	5	重点戦略（3）シティ・プロモーションに取り組みます（16ページ、19ページ）	<p>市をPRする魅力的なコンテンツは何でしょうか？</p> <p>不要な印刷物を作る前に、市に所在のする大学、短大の情報系学部へ依頼して紙以外の情報発信方法を研究模索、その行為をマスコミにリリースしてはいいでしょうか。</p> <p>昨年、河川の氾濫で大水害に見舞われた茨城県常総市では地域の大学（常磐大学）に協力を仰ぎ、地域に眠っている地域資源「ふるさとの宝物」を学芸員の学生が探し、認定、記録しミュージアムやライブラリーとして展示、交流会を行い、それを活用したプランで復興、雇用拡大に結びつけようとしているそうです。</p> <p>http://www.synqa.jp/event/3547/</p>	<p>本市の魅力を更に磨き、その魅力を市内外へ伝えていくためには、市の情報発信力の強化、市民や民間事業者と行政が一体となった取組みの強化が重要であり、それこそが本市の課題ではないかと認識しております。</p> <p>シティ・プロモーションに取り組む上では、SNSや地域の大学等の民間人材の積極的な活用を含めて、最善の手法を検討してまいります。</p>
	6	重点戦略（1）名鉄国府宮駅周辺の再整備に取り組みます（14ページ、21ページ）	<p>名古屋まで10分、人と人が行き交うターミナル駅以外で繁盛しているコワーキング、シェアオフィスの成功事例はありません。立体的な建物内に集客するのではなく、平面的な人の流れが居住都市の持続可能な賑わいまちづくりには必要と思います。その意味で稲沢駅から国府宮駅間の賑わいづくりは市の顔として最重要課題と思われます。</p> <p>飲食店で活気を取り戻している近鉄四日市駅前を参考にイベント開催や、地産物の使用PRを条件に開業資金を補助するなど人気飲食店を誘致して活気ある駅前づくりに注力してはいいでしょうか。</p>	<p>名鉄国府宮駅周辺の再整備については、今後、調査をする中で、整備手法、整備スケジュール等、検討してまいります。</p> <p>なお、駅周辺の賑わいの創出には、市だけでなく、関係団体、関係者などの協力をいただきながら進めていけたらと考えています。</p> <p>現在、稲沢市商店街連合会等に対し、商店街を活性化する取り組みを行うよう依頼しておりますが、本市といたしましても、稲沢商工会議所や稲沢市商店街連合会等より情報収集に努めながら、イベント開催等による賑わいの再生及び活気ある商店街づくり</p>

				において、行政として何ができるかを検討してまいります。
5	7	全体	<p>「人口ビジョン」P43～47のアンケート結果を見る限り、稲沢市への転入者を増やす「魅力あるまち・いなざわ」になるためには、もっと思い切った方策が必要ではないか。</p> <p>【提案1】「子育てしやすいまちへのイメージアップの努力」</p> <p>①「名古屋市の全小学校に設置されている放課後学級(トワイライトスクール)を徐々に設置」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～6年生まで年間1人400円弱の保険料だけ。市内どのコンビニでも申込可。 ・日曜・祝日を除き、土曜や長期休業中も開校。 ・余裕教室増加を利用、学校敷地内に設置 ランドセルのまままでトワイに～ <p>女性は生産年齢人口の最大の潜在力という言葉があるように、幼稚園・保育園だけでなく、小学校の児童も預けられれば女性労働力が大いに期待できる(大都市だからできること、と言わないでほしい)</p>	<p>共働き家庭の児童対策として、本市では放課後児童クラブの拡充で対応しています。</p> <p>放課後児童クラブは小学1年生から6年生までを対象に、平日は下校後から午後7時15分まで、学校休業日は午前7時30分から午後7時15分まで利用できます。平成28年度中には、全小学校区で実施する予定です。</p> <p>また、小学校において、低学年児童の下校時の安全確保と学習の充実をねらいとした「多様な学習活動支援事業」を平成25年度から試行し、平成27年度には9校で実施しています。これは、稲沢市独自の取り組みであり、1年生から3年生の低学年児童が5時間授業の日に、多様な学習活動(プラスワン)として6時間目を設定し、常に高学年と一緒に一斉下校で下校するものです。この事業は、低学年児童を学校に留め置くことで、子育て支援の一助にもなっていると捉えており、今後、実施校を拡大していきたいと考えております。</p>
	8	全体	<p>②「小中学校の給食費の大幅減額や多子家庭の第三子からの無料化を」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安くておいしい給食のある小中学校にしてほしい(保育園だけ無料化するのではなく) ・現在、祖父江・平和地区の小中学校の給食費は他地区より少し安いと聞く。これは、地産地消の考え方を生かしたものとする。これを工夫・拡大して「稲沢の給食は安くておいしい」というイメージにした 	<p>山間部の小規模自治体等で、人口増を図るため、施策として学校給食費を無料化する事例がありますが、本市の児童生徒約11,500人の年間給食費を試算すると、約5億6千万円となります。たとえ一部無料化であっても本市でそうした施策を行うことは非常に困難であると考えます。</p> <p>なお、祖父江・平和地区の給食センター担当校の方が自校調理</p>

		い。	校よりも給食費が安いのは、食材の大量購入によるメリットを活かしていることが主な要因です。 本市といたしましては、調理方式の如何を問わず、児童・生徒に安心・安全でおいしい給食を提供すべく、今後も日々努めてまいります。
9	全体	<p>無い袖は振れない。とにかく税収増を考え、稲沢の持ち味を生かし、ポジティブに、先を見越した戦略を考えねばならない。</p> <p>「偉大なる田舎・いなざわ」を、発想の転換も含め、現在の条件（負の要素）を逆手にとって、他にはない15万人都市を目指さねばならない。</p> <p>【提案2】</p> <p>増田寛也氏編著『地方消滅』の中で述べている「地域が生きる6モデル」のいいとこどりをして稲沢に当てはめて考えるのが良いのではないかな。</p> <p>①「学園都市型」を意識して…福祉施設が急増している中、日本福祉大学や中京大学の稲沢校誘致</p> <p>②「コンパクトシティ型」を意識して…国府宮駅周辺の再開発・B街区の有効開発を</p> <p>③「産業誘致型」を意識して…「Eat Well, Live Well」の味の素KKに地域開発の丸投げ</p>	<p>増田寛也氏編書『地方消滅』では、「地域が生きる6モデル」として産業誘致型、ベッドタウン型、学園都市型、コンパクトシティ型、公共財主導型、産業開発型が挙げられています。</p> <p>本市が総合戦略の計画期間である今後5年間でまず目指す道といたしましては、名古屋市から交通至便であるという本市の地勢上の特徴から、中核都市のベッドタウンとして人口を増やす「ベッドタウン型」が最も適していると考えます。宅地供給などのハード面だけでなく、子育てや教育などのソフト面での施策も充実させながら、若年層のかたがたに本市を住居地として選択していただけるようなまちづくりを進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、少子高齢化や厳しい財政見通しを踏まえますと、工場や大規模商業施設の立地が財政を支える「産業誘致型」、郊外の都市機能を中心部に集める「コンパクトシティ型」と複合させることも、本市の進む道として検討する必要があるのではないかと考えております。</p>
10	全体	④「産業開発型」（農業）を意識して…「儲かる農業」の開発を目指さねば、银杏ばかりに頼っている稲	本市では、効率的かつ安定的な農業経営を図るため、500ha超の農地を集約しており、今後もさら

		<p>沢の農業の先は見えない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の企業化、企業と連携した商品開発 ・農業関連分野における女性の起業後押しなど、難しい問題は多いが考えていかねばならない。 ・農業問題を考えずして稲沢の前進は望めない。また、合併10年の意義も薄らぐ。 	<p>なる集約に努めるとともに、農業の大規模化（企業化）についても推進してまいります。</p> <p>また、農業の6次産業化にも積極的に取り組んでおり、調査研究を進めていく中で、本市の6次産業化への取り組みの目指すべき姿を描きながら、事業計画を策定してまいります。今後、着実に事業化が進捗すれば、農産物の付加価値化や新商品開発によって、新たな産業の創出や雇用の確保に繋がるものと考えております。</p> <p>農業分野における女性の起業支援については、農村生活アドバイザーや女性農業者会議などの既存組織や関係機関と連携しながら、検討していく必要があると考えております。</p>
11	全体	<p>⑤「産業開発型」（観光）を意識して…観光に文化とスポーツを生かそう。県は観光事務所などを設置しているのに市は…。サリオパーク祖父江にはサンドフェスタやグラウンドゴルフで県を越えて人が集まる。しかし、トイレや売店が少ないなど、市の取り組みが不十分。2013年に市制55周年を記念して作られた「いなざわタウンガイド」も人を集めるほどのワクワク感が感じられない。</p>	<p>本市では現在、美濃路を歩いて巡る美濃路ウォーキングを不定期に実施しているほか、祭りイベントにおいて、抹茶の提供、俳句短歌、写真大会、文化財の公開等を組み合わせた催事を実施しております。今後におきましても、人が集まる文化・スポーツイベントに観光の分野が入り込むような連携策を検討してまいります。</p> <p>また、サリオパークにつきましては、河川砂丘や松林など恵まれた自然空間を活かした公園をコンセプトとして、さらなる充実に取り組んでまいります。</p> <p>なお、国営ワイルドネイチャープラザと市営ワイルドネイチャー緑地については、木曽川の河川敷地内に位置しております。そのため、売店や観光事務所などの建築物は設置できないこととなっ</p>

				ており、トイレなど公園施設も最小限としておりますが、出来る範囲内で公園の充実を図ってまいります。
6	12	人口ビジョン (P35、P48)	<p>稲沢市の人口推計は 2010 年の 136,442 人が 50 年後の 2060 年には 85,100 人に、現在の 4 割も人口が減るとしている。しかし 2015 年の国勢調査の速報値によると、2015 年の稲沢市の人口は 136,969 人と、人口は減っていない(人口ビジョンでは△1.5%)。なぜか。</p>	<p>2015 年の将来人口推計値(2010 年国勢調査に基づく推計)と 2015 年国勢調査速報値が異なるのは、J R 稲沢駅東側の開発によって 2010 年から 2015 年にかけて大幅な社会増があったという特殊事情によるものと考えます。</p> <p>しかしながら、その開発も一段落しており、将来的に本市の人口は減少していくと見込まれます。</p>
	13	全体	<p>稲沢市の合計特殊出生率は 2 を下回っており(現在人口を維持するには 2.07)、いずれ人口が減少することは明らかだ(日本全体ではすでに減少に転じている)。合計特殊出生率を引き上げる施策を考えないと、他自治体から人口を呼び込む以外になくなる。これでは「近隣と人口を奪い合う不毛なゼロサムゲーム」(人口ビジョン P21)に陥ることは明らかだ。</p> <p>合計特殊出生率を引き上げる施策が全く見えない。</p>	<p>合計特殊出生率を引き上げるに当たり、市単独での施策効果は非常に限定され、企業の考え方や国の施策、国民の意識等に因るところが非常に大きい面があると考えます。</p> <p>しかし、アンケートを取りますと、独身者のうち 9 割が結婚したい、子どもを 2 人は持ちたいという結果が出ます。その希望が実現していないのは何らかの障壁があると考えられます。一地方自治体といたしましても、その障壁が何かということを探り、それに対して少しでも施策を打っていく必要があると考えております。</p> <p>総合戦略の基本目標(2)で掲げた施策を中心に、合計特殊出生率向上を図るため、子育て支援等の様々な施策を検討・実施してまいります。</p>
	14	全体	<p>「不毛なゼロサムゲーム」に陥ってはならないといいつながら、総合戦略は「名鉄国府宮駅周辺の再整備に取り組みます」(重点戦略 1)、「市有街区(B街区)の有効活用を図り</p>	<p>人口減少への対応には、大きく二つの方向性が考えられます。一つは、転入促進で人口の社会増を図ったり、出生率を向上させることで人口減少に歯止めをかける</p>

		<p>ます」(重点戦略2)と、「ゼロサムゲーム」を宣言している。</p> <p>なぜ東京圏一極集中が進んだか。地方経済を切り捨て、東京圏に一極集中する「呼び込み型開発」を行ったからだ。「名鉄国府宮駅周辺の再開発」「市有街区(B街区)の有効活用」による資源は結局東京(または名古屋圏)に集中するのではないか。そうなればますます稲沢市が疲弊することになる。</p> <p>いま必要なことは、生活圏ごとに生活と産業が結びついた施策、地域内の再投資力を高める施策を充実することだ。「公共施設等総合管理計画」を策定し、周辺部を切り捨てる、住めなくする施策は地域内の再投資力をさらに壊すことになるのではないか。</p>	<p>「積極戦略」です。</p> <p>もう一つは、仮に出生率が多少向上しても今後数十年間の人口減少は避けられないことから、人口減少社会に現実的に対応するよう社会システムの再構築を行う「調整戦略」です。</p> <p>まち・ひと・しごと創生に都市間競争の側面があることは否定できません。しかし、転入促進や子育て支援に係る現金給付の支給合戦に陥れば、「不毛なゼロサムゲーム」で本市が疲弊することは目に見えています。本市の「積極戦略」を考える上では、そうした方向性ではなく、名鉄国府宮駅等の都市拠点をも市の顔にふさわしい形で整備することで名古屋圏での存在感を高めるなど、あくまでもまち全体の魅力をいかに高めるかといった視点が重要であると考えております。</p> <p>また、本市の「調整戦略」の考え方といたしましては、ご意見のとおり、生活圏ごとに生活と産業が結びついた施策、地域内の再投資力を高める施策を充実させるといった視点も重要であると考えています。それに加えて、公共施設や地域社会を人口減少社会に見合った形に再編するための検討も欠かせません。周辺部切り捨てとの誤解を招かないよう、市民との議論や丁寧な説明で理解を求めながら、本市の身の丈に合った最適解を求めてまいりたいと考えております。</p> <p>本市といたしましては、この二つの対応を複眼的に進めていくことが重要と考えております。</p>
--	--	---	--

15	全体	<p>東京圏一極集中を是正し、人口減少、少子化を解決するには雇用破壊、社会保障改悪による「グローバル国家」型の「構造改革」や合併の押し付け等による地域内の再投資力や経済循環の破壊(農業などの地域産業の破壊を含む) 施策=「アベノミクス」の転換だ。「アベノミクス」を前提とする施策では問題を解決することはできない。こうした視点が「総合戦略」に全くない。</p> <p>地域内の再投資力や地域の経済循環を高めることは稲沢市だけの努力でできるものではない。他の自治体と協力して「アベノミクス」を転換することだ。</p> <p>合計特殊出生率を向上させる手法として「保育士人材の確保に努め、保育の質を守ります」(重点戦略4)とあるが、何よりも重要なのは雇用の安定を図ることではないか。</p>	<p>アベノミクス的なグローバル施策と、ご意見のようなローカル施策は、「どちらか一方を選べ」「転換せよ」という類のものではなく、あくまでも両輪だと考えております。</p> <p>まち・ひと・しごと創生を進めるには、一地方自治体だけでは限界があります。雇用の安定を図るなどの取組みは、国と地方が一体となって進める必要があります。</p> <p>また、ご意見のように、他自治体や県などを含む広域圏で考える視点も重要であり、産官学金労といった多くの事業主体を巻き込むことも必要です。</p> <p>様々な方向性を考慮しながら、従来の「縦割り」を超えた取組みに努めてまいります。</p>
16	全体	<p>また子育てを応援する施策として「保育園・幼児教育の無償」、「義務教育の無償(教材費や給食費など)」、医療費の無料化を高校卒業まで無料にし、子育てを応援することだ。</p> <p>また子育てしやすい環境として、保育園～小学校～中学校と、地域とともに子育てできる祖父江町や平和町のやり方を守り、制度化することだ。保育園や小中学校、公共施設の統廃合はこうしたまちづくりに反するものだ。</p> <p>こうした視点を欠き、開発優先のまちづくりは1980年代から進められてきたもので、破たんが証明されてきた施策だ。施策の転換を強く求める。</p>	<p>子育てに要する費用については、今年度から子ども医療費助成を中学校3年生まで完全無料化するなど、負担軽減に努めております。</p> <p>ご意見のような直接給付施策の拡充について、一定のニーズがあることは事実ですし、定住促進や出生率向上など一定の効果も期待できるかもしれません。しかし、本市規模の自治体で見境なく拡充実施いたしますと、経常的な支出が財政を圧迫することは明らかでありますので、慎重な判断が求められると考えております。</p> <p>本市といたしましては、子育ての孤立感や負担感の解消を図り、子育て家庭を地域で支える取組</p>

				<p>みを拡充すること、それによって本市から子育て世代の流出を防ぐこと、ひいては、そうした本市の姿勢を広くPRすることで市外からの人口流入につなげることについて、優先的に取り組んでまいりたいと考えております</p> <p>そのためには、現場での声を通じて保護者のニーズを把握し、安心して子育てできる環境整備対策を練ることが、まずは最重要であると考えております。その中で、保育園や学校などの最適なあり方についても検討してまいります。</p>
--	--	--	--	---